

菊水育成

第17号

平成18年4月1日

白石区菊水地区

青少年育成委員会

発行責任者 林 和 男



第8回「菊水地区雪中運動会」札幌市東橋小学校 平成18年2月11日 参加者数270名



菊水地区青少年育成委員会

会長 林 和 男

「育成委員の活動目的」

昨年五月、菊水地区青少年育成委員会定期総会において、長年に渡り青少年の健全育成の為に力を注いでこられました、谷口前会長の後任会長を仰せつかりましたが、日頃は、菊水地区青少年育成委員会の健全育成活動に対して地域の町内、又、関係諸団体の皆様方には、多大なご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

当委員会は、毎月第二水曜日を定例会とし、各地区からの現状報告を受け全員で討議をし、最も必要なことを掘り出し、地域内での活動を進めております。

他の地域でもあるように、菊水地区では、何が必要なことを求め、毎日の活動を進めております。

新聞その他で報道されているように、凶悪な犯罪が増え、青少年を巻き込んだ事件が多く見られます。

子供達を非行から守るために地域では、声かけ運動、更に、青少年を見守る店の登録推進運動、有害図書排除活動を行っております、又、社会を明るくする運動期間中には菊水全域で街頭啓発を行い、地域住民に訴えながら子供達を見守っております。

現在は町内会や、PTAの方々にも理解者が増え、活動参加者の輪も少しずつ変わってきております。

未来を担う子供たちのために、強く逞しく育つ環境作りを目指して活動をし、スポーツでは、菊水地区の恒例になっている雪中運動会を本年度は東橋小学校で行い、地域の親子に冬の屋外活動を体験させながら、地域の環境作りを行い、育成活動に努めています。

今後とも地域諸先輩方々には、菊水育成委員に対して、ご指導と、ご鞭撻をお願い申し上げます。

「会長就任のご挨拶」

菊水町内会連絡協議会
会長 眞鍋義雄

昨年五月の菊水町内会連絡協議会の定期総会において、伊藤前会長の後任会長を仰せ使った所でありますが、何分にも浅学非才の身でありますので、会員の皆様を始め各関係団体の皆様におかれては、特段のご指導・ご鞭撻を賜わるようお願い申し上げます。

青少年育成委員会の皆様におかれては、常日頃より青少年の健全な育成のために、日夜ご努力されております事に対し、心から敬意を表する次第であります。

現在の少子高齢化社会が今後益々進むと予測されている時、次代を担う子ども達の健全育成は、大変重要な課題であり、国においても地方公共団体においても様々な施策を実施している所でありますが、菊水町内会連絡協議会においても関係団体やボランティアの方々の協力により、遅ればせながら子育てサロンを二ヶ所開設することが出来ました。菊水地区会館では平均四十組百人、上白石小学校では平均四十組七十人ものご参加を頂き、大変好評を得ている所であります。

昨年暮れには広島県と栃木県において、小学一年生の児童が相次いで殺害されると言う、大変悲しい事件が発生しております。警察の情報によれば菊水地区にお

でも、不審者による登下校時の児童に対し、声かけ事案が多発しているとの事から、各連合町内会においては犯罪の防止・抑止を図るため、防犯パトロール隊の結成や、パトロール体制の充実・強化に取り組んでいるところでございます。

又、菊水地区が安全で安心して暮らせる町づくりを進めるための方策について検討を頂くワーキング会議を、各連合町内会より二名の代表の方にご参加を頂き、昨年十二月二十六日第一回目の会議を開催しておりますが、なんと

と言つても、地域の発展は、会員の皆様のご理解・ご支援が必須の要件でありますので、よろしくお願い申し上げます。挨拶と致します。



「大都会の田舎」

札幌市立幌東中学校
校長 坪井一男

昨年の十一月、幌東中学校の生徒会が白石区「感心な青少年団体」として白石区青少年健全育成事業推進会から表彰されたことは大変感動したことの一つです。これは、地域と本校との繋がり深さを示す素晴らしいことだと思っております。

本校の子ども達は町内会連絡協議会や育成会の皆様の指導やご配慮のおかげで町内、地域での活動の場を頂いて居ります。このことが表彰につながったものと感謝しております。

地域と子ども達との関係を考えて時、昨年末の連続的に発生した登下校時の幼い子供を狙った卑劣な事件を思い出します。この事件は、子ども達や保護者に不安と恐怖をもたらすと同時に、地域の大人の「子どもを見守る目」についても注目されたと思っております。子どもを見守る目と言うのは、大人が地域に住む子ども達に声をかけるなど、地域で子ども達を育てるといふ大人の意識について問われているのです。

昔は、いたずらや悪いことをしている子ども達を注意（叱る）する大人がいました。自分の子どもの情報も、他の親からいつも耳に入ってきました。「見知らぬ人から声をかけられたら逃げなさい」と教えられている今の子ども達相手では無理なかも知れませんが

が地域の大人の「子どもを見守る目」を失いたくないと考えています。このことを考えると、赴任する時の引継ぎで前校長が「ここは（菊水地区）大都会の田舎だよ」と言われたことを思い出します。この言葉の響きにとってもすがしさを感じたのです。

地域の大人が地域の子ども達を見守る目が大きく、確かなもので失われた昔の「地域力」が、ここには伝統として受け継がれていることを実感したのです。本校の子ども達が昔の中学生のように純朴で素直でいるのは、この「地域力」の影響と感じています。いつまでも菊水地区は「大都会の田舎」であり続けてほしいと願っています。



「感心な青少年」表彰式（札幌市立幌東中学校生徒会代表）
平成17年11月20日 ホテルリラにて

ぼくの家、なんでも話せる、良い親子

「願いはひとつ」

札幌市立東橋小学校
校長 井上 耿

インドネシアを中心とする地震による大津波では、数十万人が犠牲になりました。「自由」がもたらせるはずだったイラクでは戦火がやむことはなく、パキスタンでも七万人以上が地震で犠牲になりました。北米大陸を襲ったハリケーンでは、文明国のもろさが露呈しました。いつも路頭にさまよつのが、なんの罪もない子供達たちでありま

す。幸い私達の日本は平和です。しかし、子供達にとつて生活しやすい国なのでしょうか。「夜回り先生」として知られている、元高校の先生だった水谷氏は言う「子は十ほめて一しかれ」と先人は言いました。今は「十しかつて一ほめない」親が多い。世の中全体が攻撃的で、優しさが欠けているのではないのでしょうか。子供は、受けた優しさや愛が多いほど、非行や心の病から遠ざかる。そして愛と優しさが深いほど、たとえ非行に走つても心の傷は浅くすすみません。子供達が昼の世界で花をさかせられるよう、社会全体で暖かく育てていきましょう」と。物質文明の発達と反比例するように人の心の優しさがどこかに消えていく、と言われて久しくなります。最近特に、核家族化や少子化が進み、若い母親が子育てに悩むケースが増えていると聞きます。



「青少年を見守る店」合同推進活動時 平成17年10月
東橋小学校教師、PTA、育成委員と

グループ討論の中で、子供の躰に対する悩みが出されましたが「親が躰できなくてだれかがやってくれる。毅然とした態度が必要である。」苦悩が感じられる中にも、キラリと目が光るのを感じました。そしてその裏にある、子供に対する愛情をかんじたのです。私は子供が失敗した時、成功した時、そして躰で考えがぶつかった時など、強く抱きしめてやるのが大切だと思います。言葉がなくても、愛情が伝わります。願いはひとつ、子供達が明るく健やかに育つために、私達一つ一つの家庭が、それをつつむ地域が、今、何をすべきか考えてみたいと思います。

「キャッチボール」

札幌市立上白石小学校
校長 武田 裕二

私は、野球が趣味である。小学時代の遊びの中心は野球であった。放課後が楽しみで「さようなら」の挨拶と同時に校庭に飛び出す毎日だった。雨の日の恨めしかったことを懐かしく思い出す。グローブ、バットは高価で、個人で持つのは難しく、学校にあるのを使わせてもらった。そんな日々だったので、スपोर्टといえば野球という感じが強い。

そんな時、道新の論説委員の書かれた文を目にして、まさにその通りと思つた。氏は、「いつもキャッチボールが教えてくれた」(佐藤倫朗 書)から引用して「キャッチボールは言葉の要らない不思議な会話」と表現していることを取り上げ、「コミュニケーションだから、社会性の基本が含まれている」と具体的に挙げ、

相手が取りやすいようにボール
胸元に投げる(思いやり)
暴投したら「ごめん」と謝る
(マナー)
相手が暴投しても黙ってボールを
拾いに走る(ルール)
いい球がきたら思わず「いい球」
と言いたくなる(評価・尊重)
相手の技量や性格を推量できる
(相対的な自己認識)
ボールが当たれば痛い



「青少年を見守る店」合同推進活動時 平成17年10月
上白石小学校教師、PTA、育成委員と

どれも子供が生きていく上で欠かせないものであり、氏はこの力や心を養つのは家庭、とりわけ父親の役割と断じている。

野球ボールでなくてもいい、サッカーボールでもいい。そんな父親との関わりから子供は成長していくし、生きる力を身につけていくものと思う。

そんな関わりを求めてつくられた本校の「おやじの会」。自然体の活動の素晴らしさに大変心強く思っているところであり、そして地域のおやじとしての活躍に期待を寄せているところである。我田引水とおもいつつ……。

子に恥じぬ、親が手本の、良いしつけ

地域に問われる安全・安心なまちづくり

北海道札幌方面白石警察署生活安全課

第一係長 佐藤 幹夫

青少年育成委員会の皆様には、警察業務の各般にわたりご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年インターネットや携帯電話の普及など社会が急速に発展変化する中、青少年を取り巻く環境も悪化し、様々な影響を及ぼしています。

例えば携帯電話等のメールは大きな便利がある反面、有害情報のやり取りや出会い系サイトなどに使用され、少年非行や被害の陰には必ずと言っていいほど携帯電話が出てきます。

平成十七年中の非行少年は、北海道全体で前年対比二十三日減少したのに対し、白石警察署では十%増加しました。内容的には、八十九%が自転車盗と占有離脱横領でしたが、路上強盗やひったくりなどの凶悪事件を犯す少年が後を絶たず、また非行の入り口と言われる喫煙、深夜外出等で補導される少年が増加していることなど、依然として凶悪化、低年齢化など憂慮すべき真中にあると言っても過言ではありません。

その一方では児童生徒が被害となる凶悪事件が地域に大きな不安を与えているところ。記憶に新しいところでは広島県、栃木県下の小学児童殺害事件はじめ大阪池田小学校で発生した無差別殺傷事件など、本来安全であるべき学校や公園が犯行の場所となっている現実を見ますと地域すべてが

安全対策であることの必要性を改めて強くするところです。

幸い道内、札幌市内ではこの種事件の発生はありませんが、道内の各地では前兆となる児童に対する声かけや不審者の出没が毎日のように報告されており、常に凶悪事件に繋がる危険性が隣り合わせであることを認識しておかなければなりません。絶対安全と言い切れる昨今ではないのです。

声かけ事案の報告の中に「僕何年生だ：勉強がんばれよ」と一昔には何でもないことが不審者になってしまおうのです。とてもむなしく、寂しさを感じるところですが、信頼や信用が問われる現代、過剰な反応もやむを得ないことと思えます。

そのような中、地域の子どもは地域で守ろうと言う気運が高まり真剣に地域の皆さんが防犯パトロールや見守り活動に取り組まれているところです。当然、子どもへの安全、安心を守るのは親、学校に第一の責任があります。しかし、次代を担う子ども達も育つ安全な地域の環境は、地域に責任があると考えています。そのような意味からも様々な分野の地域の皆さんが心一つにして安全活動への参加の輪が広がっていることは、大変意義深いことと思えます。勿論、子ども自身も子どもの視点で安全、安心についてしっかりと自覚し危険な場所に行かない、暗くなるま

で遊ばない、安全標語の「いかのおすし」を守るなど、約束やルールの大切さを教えて頂くようお願いいたします。まずは、大人の知恵と責任で非行防止や地域の安全にどんなご意見を出して欲しいと願うところです。

ご承知の通り昨年菊水地区では町内会の皆さんによる「菊水南サーフテイルリース隊」「菊水西連合町内会ふくろう隊」等の自主防犯パトロール隊が誕生し、一生懸命に防犯や子ども安全活動に尽力されています。どうか、当たり前に元気に通学して遊べる安全で安心な菊水地区が続きますよう地域の皆さんが一つとなったまちづくりを期待しております。当然、白石警察署も参加させていただきます。

まもなく厳しい冬も明け、春の足音が近付いてまいります。おわりに、育成委員の皆様のご活躍と菊水地区の益々の発展を心からご祈念申し上げます。

我が子を、誘拐から守る
警視庁安全標語
「いかのおすし」
知らない人にはついていかない
知らない人の車にはのらない
おおきな声で叫ぶ
すぐ逃げる
しらする

ふれあいの、心が築く、明るい社会



平成十七年七月「社会を明るくする運動」街頭啓発活動 菊水上町「みゆき菜粧」にて



「人とのかわりによる教育」

札幌市立菊水小学校

校長 益村 豊

菊水小学校に着任して初めての、新しい年の幕開けを、日頃からお世話になつている青少年育成委員会の方々と迎える機会がありました。

新年の清しさを喜び合いながら、話題は、子供たちの健全育成と、社会の難しい状況に移って行きました。

最近の報道からは、子供が被害者になる犯罪事件の続発に心が痛みます。

このような社会状況の中で、子供たちの健全育成のために「地域の教育力」がより一層求められています。

かつて、子供たちは、自然の中で仲間と一緒に遊んだり、家庭や地域での「手伝い」等を通して、人とかかわりながら主体的学び、成長しました。

人間は他の人とのかわりの中でしか生きられません。自分らしさとともに、つねに他人を考え、協力していく力が大切だと考えています。

しかし、近年、急激な都市化の進行が子供を孤立させ、閉鎖性を促進しています。

そこで、例えば子供会活動など、地域の中で望ましい環境を作つて社会の一員として育つような働き掛けの意義が再認識されています。

学校もまた、地域と連携して子供を育てています。

菊水小学校では、PTAと協力して花いっぱい運動、地域のお店や施設で

職業体験をする総合学習など「人とのかわり」を重視した教育活動を推進しています。

この冬休み、子供たちは、青少年育成委員の方々のご尽力のおかげで、何事もなく過ごすことができました。地域社会の教育力の推進役となつて委員の皆様にご心からお礼を申し上げます。

年明けの懇談の中で、委員の方々から、子供たちを「地域の子供」と受け止めてくださっている言葉をうかがい、とても嬉しく思いました。地域全体が教育的な働きを担っていることを一層強く感じながら、学校も地域の一員として、今後とも子供たちの健全育成のために努めていきたいと思ひます。



「少年団活動を通しての健全育成」

札幌市立幌東小学校

校長 遠藤 美通

私は、サッカー少年団に二十年間関わらせてもらった。

関わるきっかけは、昭和四十八年に転勤した学校で子供達のお世話をする指導者が誰もいなくなり、全くの素人である私が引き受けたことに始まる。

そのうちに、素行の面で放課後の生活が心配な子供はみんな少年団に入れて面倒を見ることになっていった。

こんなわけで、もっぱら放課後の子供達生活指導的な意味で始めた社会教育活動であった。

サッカーに勝つことにほとんど意識はなかった。だが、エネルギーに溢れる子供達だったため、本気になって練習をしたら、全市で三位になってしまった。それでも私自身は勝つことよりも子供達の非行ストッパ、サッカーという集団の競技を通して人間的に子供達を育てることに一番の主眼があった。

それが、次に転校した学校でも頼まれてサッカーの指導をしている内に少しずつ変わっていった。この学校は歴史と伝統があり、全道大会で優勝するような少年団であった。自ずから私に対する期待も勝つことが当たり前とされた。私自身、サッカーのことをよく知らなかったので勉強をし審判の免許を取つて土、日、祭日、夏休み、冬休み、時には北海道代表として、全国大会に行く時には、お正月も

返上して練習をした。

今になって思うとサッカーを通して本当に子供達を育てることができたのだろうか。たまたま、ちよつと勝ってしまったことで私の意識が勝つことばかりに目がいつってしまったと反省している。ただ、今でも「よかつたな」と思っていることは、レギュラー子供達だけでなく、どの子もみんな、サッカーでも、勉強でも、児童会の活動でも何でも一生懸命にすることを学ばせ、身につかせたことである。

保護者の方もPTAの役員や学級の委員などに積極的に取り組んでくれた。この二十年間をトータル的に見ると、私なりに少しは健全育成に関わらせていただいたと思つている。



母の愛、父の理解が、子を守る

「菊水のまちづくり」について

札幌市菊水まちづくりセンター
所長 嶋影昇

昨年四月に菊水まちづくりセンターに着任しております。菊水地区青少年育成委員会の皆様には、日頃のような活動に感謝申し上げますとともに、菊水・札幌市民の願いであります「青少年の健全育成」にご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

また、委員会が実践しております雪中運動会を始めとするスポーツ、文化、非行防止、健全育成啓蒙活動、更に地区で行われる各種事業への協賛活動では、なくてはならない地域活動の大きな原動力となっております。私自身は、これまで区役所や出先経験がなく、右も左も解らなかつた時に、委員の方々が笑顔でご指導・お付き合いただいたき、地域のことを数多く学ぶことができ大変感謝しております。

今、まちづくりセンターも新しい時代を迎え、地域のまちづくり推進の拠点として、地域の課題を共有し相談しあえる場となることが改めて求められております。こうした中、ここ菊水地区において、地域のまちづくりに向けての新たな取り組みが始まりましたので、ご紹介しましょう。

昨年は大変悲しいことが多かった年で全国はもとより菊水地区においても、高齢者や子どもが被害者となる事件や事故が発生し、私自身もそのたび

に心を暗くしておりました。

こうした話題を育成委員や地域の方と話し合ってみると、やはり同じ思いで何とかしなければと言う気持ちを、お持ちでした。それではと、「地域の安全は地域で守る」と言うことを題に、会議を開くことになりました。

菊水地区の各連合町内会の後押しもいただきました。会議名は「菊水地区の安全・安心に関するワーキング会議」と名づけ、育成委員会の委員を始め、地域安全活動推進委員、交通安全関係者、民生児童委員、町内会防犯・防火関係者など様々立場の方が参加しております。昨年十二月からのワークショップ形式で、学校やPTAの参加も得ながら防犯・防火・交通安全など、他の地域にも参考となりそうな取り組み、又、安全・安心への対策として色々なアイデアを出しながら検討を重ねております。

今後地域の安全に関して、誰でもが出来るような事例の提案、注意を促すポスター・チラシの配布など、地域に役立つ活動が続けられるでしょう。

まちづくりセンターはこの例に限らず、住み良いまちづくりのため、地域の方々が参加して行う、身近な問題を解決するための取り組みには、センターを上げて支援・協力して参りたいと考えております。

「お母さんを、一人にはさせない!」

菊水地区民生児童委員協議会
主任児童委員 縄野範子

菊水地区に今年の六月に子育てサロン「どんぐりころころ」を立ち上げました。今までは、やよい児童会館において行政の子育てサロンが週一回行われていました。場所が菊水の外れにある為遠い人がこられないと言つ声もあり、中間にある菊水まちづくりセンターで行うよう、市の保健福祉サービス課子育て支援の職員の方々と協力の協力を得て開設することができました。

五月から民生委員の方々の協力で手作りお人形や、牛乳パックで作ったブロッコ、レンジや流し台、魚つり、絵本、木のおもちや、お手玉等、子ども達の喜ぶような物を揃えました。六月より毎月第二火曜日に十時〜十一時三十分まで開催しております。主任児童委員を始め、民生委員、町内会女性部、青少年育成委員の方々に協力して頂き、親子が大勢遊びに来てくれます。近くの保育園の子ども達も散歩の途中に先生と立ち寄ってくれます。いままでは、平均で六十人ぐらいの親子が参加しております。十二月には、クリスマス会をして、ゲームをしたり、ボードビルの出し物やジングルベルの踊りをして、終わりに、サンタさんより、プレゼントをもらい楽しいクリスマス会を行うことが出来ました。これからもいろいろな行事を取り入れていきたいと思っています。

沢山の親子が来てくれるのを期待しています。今は、少子化の時代で少子化をすこしでも解消する為に親子で集まって遊べる場所を提供し親も子ども家に閉じこもることなく、サロン等に出掛け、情報交換の場になればいいなあと思っています。

最後に私達も今、子育てに頑張っている親に、少しでもお役に立ちたいと思っています。

子育てサロン「どんぐりころころ」
菊水まちづくりセンターにて



健やかに、伸びる若さが、あすしつくる

「多彩な活動に驚き、そして感動！」

菊水地区青少年育成委員会委員
札幌市立上白石小学校PTA会長

松本直樹

あつという間の一年間でした。「菊水地区青少年育成委員会」を引受けはしたものの、何をするのか解りません。

毎月一回の定例の打ち合わせ会議は大変でした。二十一人が一同に会しての打ち合わせ。活発な意見交換が行われる会議が印象的でしたが中身を把握できたのは年末でした。

菊水地区には幌東中学校を中心に東橋、上白石、菊水、幌東の各小学校があります。この子供達の健全な育成をお手伝いするのが主な活動です。その為に、地区パトロール、社明大会街頭啓発運動、訪問研修会（今回は資生館小学校）、青少年を見守る店の登録運動など多くの活動をしています。そんな中で、資生館のオープンな複合施設としての造りは都市部の学校の一つ「形」として、少子化の時代にマッチしていると思われます。又、寒い北海道ならではの「雪中運動会」は、雪国ならではの学校、PTA、町内会、スポーツ少年団を含め地域ぐるみ行事となり、寒いながらも今回は好天に恵まれての美味しい豚汁、又、カマクラ及びイグルー造りでの親父の会の参加もあり、大変盛況でしたので続けて欲しい行事です。

育成委員は白石区のふれあい健康マラソン、共同募金街頭奉仕、子育てサロンへの協力、札幌市福祉のまちづく

り研修、青少年育成委員会全員研修会「成人の日」行事実施への参加も重要な活動と成ります。

とにかく「もりだくさんのボランティア活動」には驚きです。当然ながら、とても一年では覚えきれません。それにしても、育成委員の先輩たちのバイタリテイには頭が下がります。

餅つきでは完全に馬力負けしてしまい脱帽しました。育成委員の皆様には、一年間ご迷惑をおかけしまして、また大変お世話になり本当に有難うございます。これからも菊水地区、そして白石区の青少年の健全育成のために活動の機会を増やせるようにしたいと思いますのでよろしくお願ひします。



上白石小学校「おやじの会」によるイグルー製作風景
平成18年2月11日「第8回 雪中運動会において」

「青少年を見守る店」の登録にご協力を！

「青少年を見守る店」とは・・・

買い物に訪れた子ども達に、温かい声をかけていただき、悪影響を及ぼすような物品を、子ども達に売らない、見せないよう、協力していただくお店です。

菊水地区の登録協力店は、118店になりました！！有難うございました

ご協力店は、お店のドアに、このステッカーが貼ってあります。



「つむじゅ」や「言わぬは」「つむじゅ」、愛の声

菊水地区青少年育成委員会名簿

Table with 8 columns: 役職, 氏名, 地区, 所属, 役職, 氏名, 地区, 所属. Lists committee members and their roles across different districts.



小さなバラのつぼみは、夢開く白石区の未来をイメージしたものです。

年間行事

- Annual activities list including: (四月) 定例会, (五月) 定例会, (六月) 定例会, (七月) 定例会, (八月) 定例会, (九月) 定例会, (十月) 定例会, (十一月) 定例会, (十二月) 定例会.



菊水地区青少年育成委員の皆さん

- Continuation of annual activities list: (十二月) 定例会, (一月) 定例会, (二月) 定例会, (三月) 定例会.

編集後記

「菊水育成」のこの欄を書く時期になりますと、一年間の育成委員としての活動を振り返ります。今年度も、社会を明るくする運動、白石区ふるさと祭り、夏休み、冬休みの年末パトロール、マラソン大会、赤い羽根募金、成人式そして菊水地区雪中運動会と様々な活動に参加、協力又は主催をし、あつという間の一年だった様に感じます。その行事のたびに、各地域の皆様、各校の先生、PTA役員の方々、そして保護者の皆様のご協力を頂きました事を心より感謝申し上げます。昨今、犯罪の低年齢化等、子ども達を取り巻く環境は、悪化の一途をたどっており、住みづらい世の中に成っています。私達育成委員としましては、今後も皆様との連携をますます深め、子ども達の地域生活を見守っていかれたらと思っています。又、広報誌発行につきまして、各校校長先生をはじめ、白石警察署生活安全課係長、菊水まちづくりセンター所長、菊水連絡協議会会長、菊水地区民生児童委員、の方々にご寄稿をお願いし、お忙しい中ご協力頂きました事、心よりお礼申し上げます。 広報委員一同

広報委員

- List of publicity committee members: 委員長 福山 マリ子, 副委員長 内田 明子, 委員 田上 幸子, 委員 玉川 陽二, 委員 柳沢 美奈子, アドバイサー 本田 忠男

